

2018年12月期 第1四半期決算 Q&A資料



CNC超小型立形研削盤
USG-3

株式会社 太陽工機

【質問】

Q:2018年度第1四半期の業績について? P3

Q:2018年度の通期売上計画を修正した理由は?P3

Q:2018年度の通期利益予想を修正した理由は?P4

Q:配当予想を修正した理由は?P4

Q:受注残が増えたが、生産に問題はないか?P5

Q: 2018年度第1四半期の業績について？

A: 2018年度第1四半期は、売上台数で65台となり、好調な産業機械関連の売上(売上高比率56.3%、台数比率53.5%)が寄与し、売上機械1台あたりの平均単価を前年度比6百万円(第1四半期の平均単価41百万円)押し上げました。利益面では、特に、ロボット・減速機関連、半導体関連や自動車関連企業からの複数台ロット生産で生産効率がアップしたこともあり、売上、利益ともに四半期別で過去最高になりました。

Q: 2018年度の通期売上計画を修正した理由は？

A: 2018年度第1四半期の売上が順調に推移したこと、組立スペースの有効活用により生産能力の向上が図られたことに加えて、2018年度第1四半期の受注額が、前期(2017年度)第1四半期より、4期連続して過去最高の受注額の更新を継続中ですので、当初の売上計画を見直し、通期売上88億円(230台程度)に上方修正することに致しました。尚、第1四半期の売上高は月当たり約9億円となっていますので、第2四半期以降も引き続きこのペースを維持出来るように取り組み、通期売上計画88億円を最低ラインとして、売上増を目指してまいります。

Q: 2018年度の通期利益予想を修正した理由は？

A: 2018年度の通期売上計画の変更(上方修正)に伴い、2018年度の利益予想の見直しを行った結果、営業利益を12億円に上方修正します。第2四半期以降は、生産能力増強による人員や新入社員の増加及び定期昇給などによる人件費の増加、弊社プライベートショー、JIMTOF2018などの展示会費用の増加が見込まれますが、引続き、複数台ロット生産による原価低減効果により、営業利益が当初計画比1.5億円増の12億円で営業利益率13.6%(当初計画比0.5%増)を確保出来る見通しです。

Q: 配当予想を修正した理由について？

A: 通期利益予想の修正に伴い、今期の配当金の見直しを行った結果、2018年度は1株当たりの配当金を80円とし、中間期(6月30日)と期末(12月31日)を期日として、2回に分けて(1回当たり40円)配当金をお支払いする予定です。配当政策については、配当性向30%を目標としております。それに沿って今後も配当政策を決定してまいります。

今期の利益予想に対する配当性向は29.9%となります。

今後も増収増益を目指し、業績に連動するかたちで、配当金の増額を検討してまいります。

Q: 受注残が増えたが、生産に問題はないか？

A: 2018年度第1四半期の受注額は、産業機械関連及び自動車関連企業向けを中心に幅広い産業での活発な設備投資需要により、4期(四半期別)連続して過去最高を更新しております。受注ペースは月当たり11億円(31台)を超え、想定よりも急速に上がって、今後も、高水準で推移する見込です。

2018年度の生産については、第1四半期は月当たり売上金額で約9億円となっております。組立スペースとしては、月当たり金額で約10億円、台数で約25~28台分が確保されていますが、このままの受注ペースで推移すると更なる組立スペースの確保が必要になります。今後、早急に組立スペースを確保することを念頭に、まず、現行のスペースを有効活用して、①タイムリーな部品調達②サプライヤーとの関係強化③人材の確保と社内のノウハウの標準化、習熟により、生産効率UPの取り組みを行って、更なる生産能力の向上を図ってまいります。

お取り扱い上のご注意

本資料は、当社をご理解いただくために作成したのもので、当社へ対する投資の勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の情報は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。

お問合せ先 株式会社太陽工機 管理部

TEL : 0258-42-8808

URL : <http://www.taiyokoki.com>